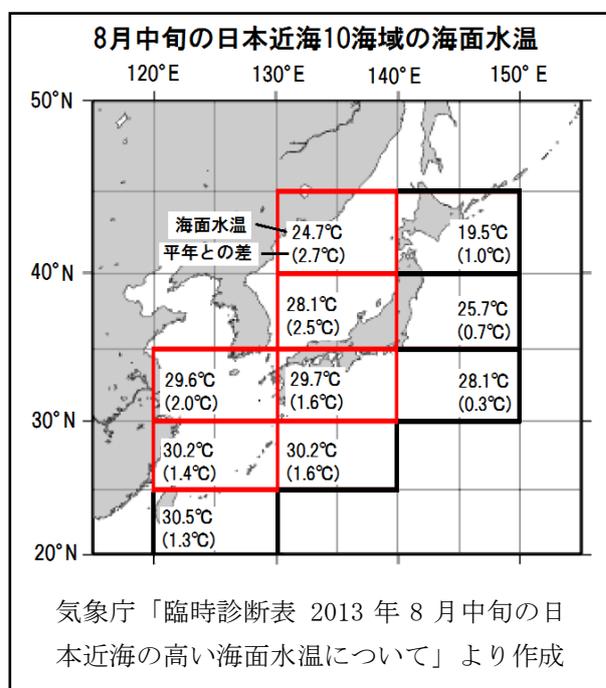


日本近海の高水温で懸念される漁業への影響

～不漁・不作に対する備えに「ぎょさい」、「積立ぷらす」～

今年の夏は、国内最高気温を更新する 41.0 度が高知県四万十市で観測されるなど、非常に暑かった 8 月が過ぎ、次第に涼しくなる 9 月ですが、海は暑さがまだまだ続きそうな見通しです。気象庁の 8 月 28 日の発表【臨時診断表 2013 年 8 月中旬の日本近海の高い海面水温について (<http://www.data.kishou.go.jp/shindan/rinji/2013/05/sst20130828.html>)】では、日本近海 10 海域のうち 5 海域で、8 月中旬の海面の平均水温が 1985 年以降の観測史上最高を記録しました。9 月に入っても、日本近海は、海面の水温が平年より高い状態が続くとの予報になっています。

この高水温による漁業への影響をみると、北海道海域で平年より 1℃高い状況から、8 月に
出漁となったさんま棒受網漁業において、魚群の南下が遅れ、北海道沿岸から遠く離れた海域に漁場が形成されています。また、8 月下旬から始まったさけ定置網にくろまぐろが入るなど、高水温と強い暖流の影響が見られ、さけの来遊が心配されています。一方、北の海ばかりでなく、広島県の養殖かきは高水温による成長遅れのため、例年 10 月 1 日の出荷を 11 日に遅らせる予定であり、10 月に開始されるのり養殖業でも、生育状況への影響が懸念されるどころです。



来遊不振や生育不良などによる減収に対し、「ぎょさい」は再生産のための経費を補てんします。また、「積立ぷらす」をあわせて利用することで、「ぎょさい」で対象にならない減収部分の補てんを受けることができます。

ぎょさい団体一同、一人でも多くの漁業者の経営安定に役立てて頂けるよう、引き続き「ぎょさい」と「積立ぷらす」の加入推進に取り組んでまいりますので、関係各位のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。